

ふき指導案

チーム四小

青 梅 第 四 小 学 校
授 業 改 善
5年

9月30日(火)3時間目

国語 「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる (2/6)」

本時のねらい

◎文章の構成を捉えることを通して、筆者の主張を理解する。(思考力・判断力・表現力)

本時のこだわり

○正木先生と話し合い、1組は構成理解から先にやります。2組の授業後なので、その違いも見ていただくと幸いです！

段階	学習活動	指導(○) 支援(▲) 評価(☆)
導入	1. 2回目読みで考えた文章の構成を振り返る。	○スライドを使うことで、視覚的に内容を振り返ることができるようにする。【視覚化】
展開1	文章の構成を確かめ、筆者の主張を読み取ろう。	
	2. 文章の構成を考える。 T: 結論が書かれた段落はどこですか。 C: ⑪。2 回目読みで筆者の主張のようなものがあったから。 C: ⑩と⑪。⑩の最初に「このように」という言葉があるから、まとめが書かれていそう。 T: 本論はどこからですか。 C: ③。ここから事例になっているから。 C: ②。問いがあるけど、⑫にも問いがあり、⑫までは序論ではないと思うから。 T: 本論は細かく分けられますか。 C: 「まず」、「次に」、「では」に注目すると、②-⑥、⑦-⑫、⑬-⑮の3つに分けられる。 C: ⑫は「このように」と「では」があるから、本論2と本論3どちらにもあると思う。	▲文章構成図を提示することで、それぞれの構成部分に何が書かれているか想起させる。【視覚化】 ○2 回目読みで見当をつけた主張や、つなぐ言葉への着目を生かしながら、構成の分け方のポイントを共有する。 ○②の問いは「確立」の話をしており、全体の問いではないことを押さえる。また、つなぐ言葉の「まず」に着目させることで、本論であることを押さえる。【焦点化】 ○これまでの流れのようにつなぐ言葉に着目できるよう、言葉掛けする。 ▲つなぐ言葉がわからない児童には、机間指導の中で一緒に確認をする。 ☆文章の構成について理解できている。(観察・発言) ○ペアやトリオで話し合う時間を短く取り入れることで、発言しやすい雰囲気を醸成する。 ▲読む範囲を焦点化することで、読み取りが苦手な児童も取り組みやすくさせる。【焦点化】 ○既習事項の語尾や言い回しに着目させる。また、考えに根拠をもたせる言葉掛けを行う。 ☆筆者の主張について理解できている。(観察・発言)
展開2	3. 筆者の主張を読み取る。	
	T: 筆者の主張は序論・本論・結論のどこに書かれていますか。 T: まず序論を確かめましょう。 T: 次に結論を確かめましょう。 C: 「のです」という書き方が強いから、筆者の考えが一番強く表されているので主張だと思う。	
まとめ	4. ノートに学習の振り返りを書く。	○めあてに対応した振り返りになるよう、文型を提示する。【視覚化】